

412  
724  
30

唐土名勝圖會

直隸

24416  
5  
五

唐土名勝圖會第一集卷之五

目次

直隸

目錄

順天府

保定府

永平府

河間府

2927  
6

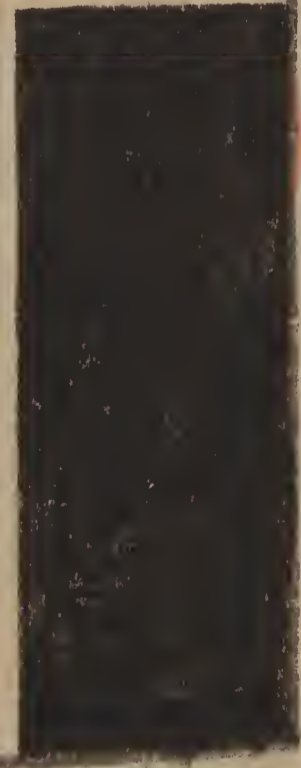


SMITHSONIAN  
INSTITUTION

2242

直

隸





圖說

大興苑平林二縣（今之興平縣）即京師（今之西安）之係（屬）也故以此卷之  
 此をのせび又圖中（中）にありて南海（今之南海）の花園（園）の南  
 園之西海（今之西海）の西苑（今之西苑）之其外玉泉山（今之玉泉山）及び西山（今之西山）天  
 壽山（今之壽山）より京師（今之西安）を環（環）り乾桑河（今之乾桑河）盧溝橋（今之盧溝橋）に到（到）るに  
 郊烟（今之郊烟）を記（記）して爰（今）は圖の（今）と出（出）せり合（合）して見て  
 全（全）と知るる（今）又易州（今之易州）の直隸州（今之直隸州）なりとて  
 方位（今）に依（依）て府の圖（今）に併（併）に以下皆准（今）之知る（今）也

唐土名勝圖會卷之五目錄

順天府

通州

薊州

東安縣

定興縣

懷柔縣

保定縣

保定府

清苑縣

安肅縣

博野縣

蠡縣

新安縣

昌平州

良鄉縣

香河縣

寧河縣

房山縣

平谷縣

祁州

定興縣

望都縣

雄縣

涿州

固安縣

三河縣

順義縣

文安縣

霸州

永清縣

武清縣

密雲縣

大城縣

滿城縣

唐縣

完縣

高陽縣



永平府

盧龍縣

樂亭縣

河間府

河間縣

任丘縣

故城縣

遷安縣

臨榆縣

獻縣

文河縣

東光縣

撫寧縣

灤州

阜城縣

寧津縣

景州

昌黎縣

肅寧縣

吳橋縣

唐土名勝圖會卷之五

故兼葭堂木世肅先生遺意

大原東野民聲

編述 法橋 岡田玉山尚友

岡 熊岳文暉

全 畫

順天府

京縣二曰大興曰宛平州五曰通州曰昌平州曰涿州曰霸州曰薊州縣十有七曰良鄉曰固安曰永清曰東安曰香河曰三河曰武清曰寶坻曰寧河曰順義曰密雲曰懷柔曰房山曰文安曰大城曰保定曰平谷都而屬順天府○大興宛平之二縣系漢之涿郡也

通州

順天府の東に十五里あり秦の北地を遼陽に屬し漢の北平郡に屬し唐の玄州に屬し後漢の潞郡に屬し今尚ほ北平に屬し編戸二十六里

白河

順天府の北に十五里あり秦の北地を遼陽に屬し漢の北平郡に屬し唐の玄州に屬し後漢の潞郡に屬し今尚ほ北平に屬し編戸二十六里

鮑丘河

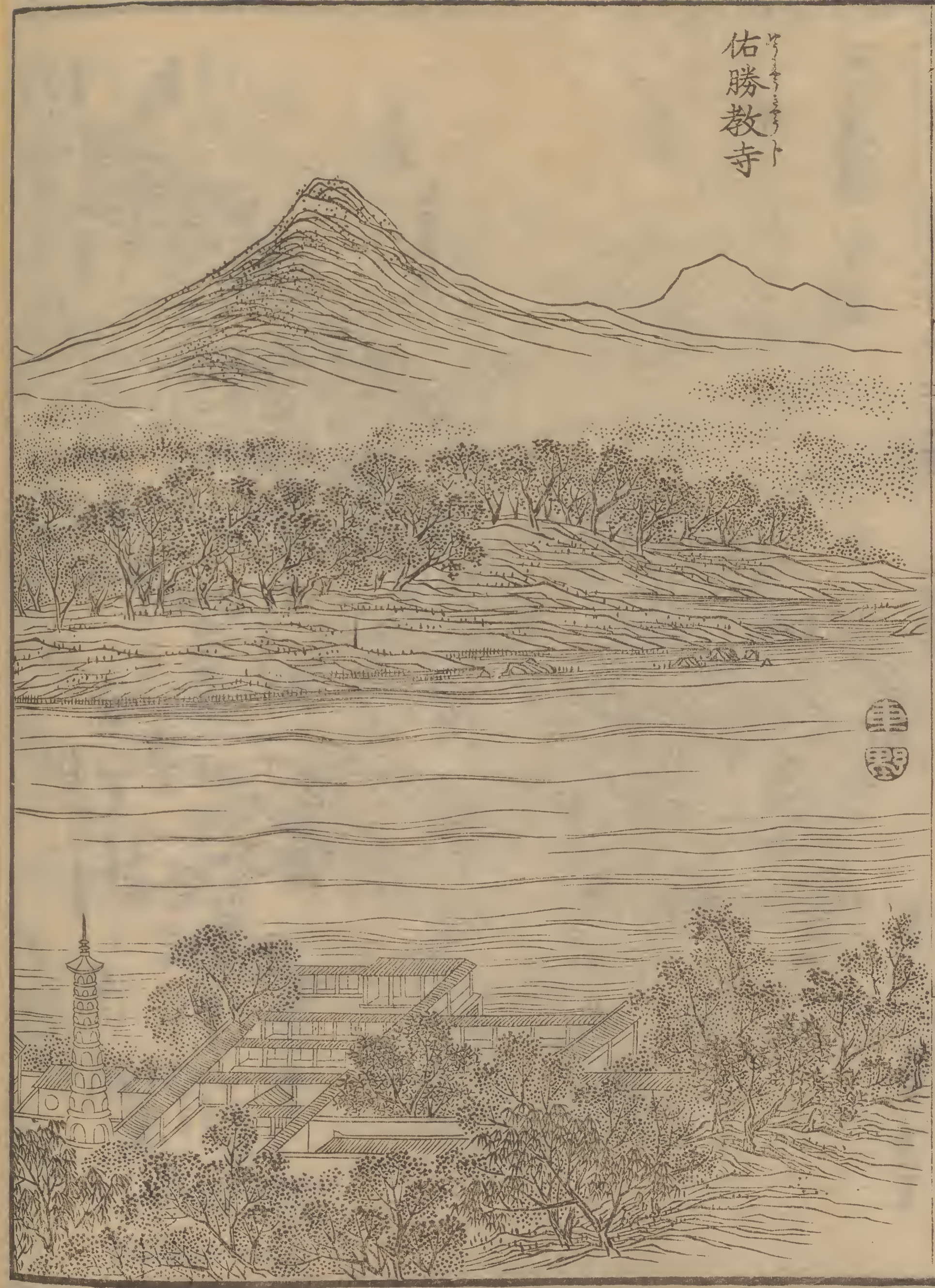
順天府の東に十五里あり秦の北地を遼陽に屬し漢の北平郡に屬し唐の玄州に屬し後漢の潞郡に屬し今尚ほ北平に屬し編戸二十六里







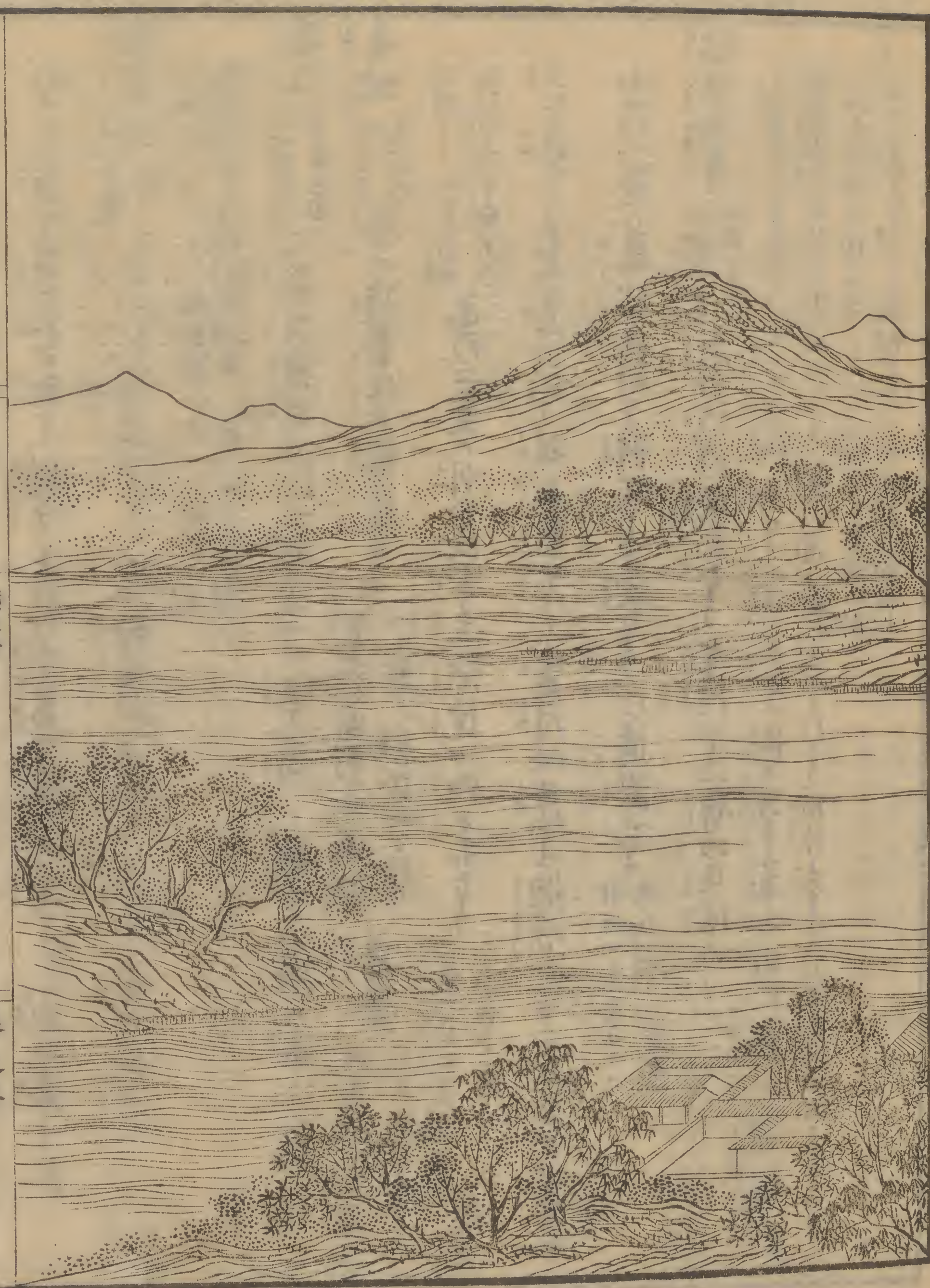
佑勝教寺



直隸

順天府

卷之五









翠屏山

翠屏山古詩  
 我欲叩石鐘驚起  
 洞中人  
 烟蘿杳無際空鎖  
 石門春  
 石洞何窈窕云是  
 仙人庭  
 仙人渺何許瑤艸  
 空自書  
 石洞窄且深花落  
 無人掃  
 仙翁去不還何處  
 尋瑤草  
 荒鳴門書

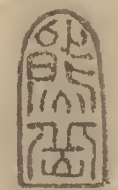


仙人洞

紅門



九龍池



直隸

順天府

卷之五







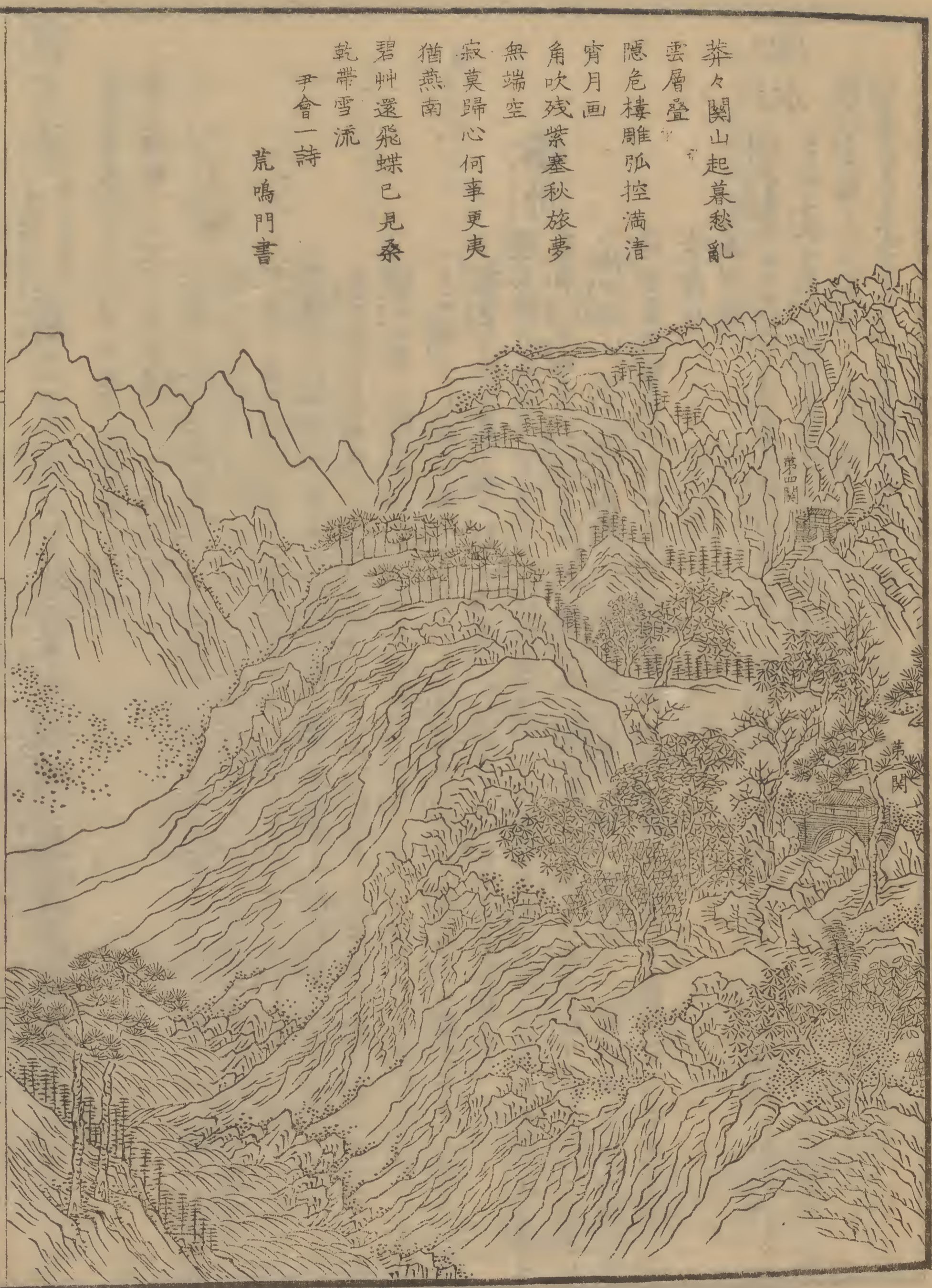
居庸關



居庸關

第一關

莽々關山起暮愁  
亂雲層疊  
隱危樓  
雕弧控滿清  
宵月画  
角吹殘  
紫塞秋  
旅夢  
無端空  
寂莫  
歸心何事更夷  
猶燕南  
碧艸還飛蝶  
已見桑  
乾帶雪流  
尹會一詩  
荒鳴門書



直隸

順天府

卷之五







後人入て此と採食ふ味極て佳し。○家の人琴高源郡又遊ぶる凡二百年一日并又潤てらん。吾水の中より龍と云んと即期と成りて水底に其愛日保して金先乃赤銀と云なり。水中と生留て二月後。○洗馬潭 卅の西あり。桐竹ふ。張花馬と此洗馬と。○月池 卅の西南十八里あり。其形月の如し。○智元亭 卅の西南あり。秦と燕と求む燕の志丹荊軻を殺し。智元の地圖を賣し。秦の復状貌原來似婦人。○乾隆帝御製智元破攬古詩。智元廣行舊青腴。計使荆軻獻地圖。持短入長奚濟事。害成延禍竟亡軀。馬遷作史失辭駁。劉向傳經具政模。引水開田言則易。推行得當竟誰乎。

登山 卅の西南易州。其形如と麗霞がど。山の下は澤あり。其深水の階下なり。沈なり。淵と海の字相似たり。嶺とくは涿鹿山。方よりと。帝皇と涿鹿の境。我り即此之。年蕭園を出て。○石虎山 卅の西あり。山上乃澤と麗と即此なり。二石其形虎の如し。

樓桑村 卅の西南十里。蜀の昭烈帝此所なせる。○蜀志曰先主幼少して孤なり。廢と飯常とて。業と人舎の東南の角籬上より桑樹あり。云と又六遂より。童とてして小車の蓋乃て。或人謂此所貴人と云ん。載言と吾必この羽葆蓋車と云るべし。後遂と云なり。

漢昭烈廟 卅の東あり。○盧植墓 卅の東あり。行宮 涿州城の南あり。乾隆十六年帝南方より巡獵し。涿州の形と達りたる。外殿あり。

劉玄德





漢昭烈廟

春秋氏族著承堯  
嗣服中山懿派昭  
鼎一足三成帝業  
牛黃腹白應童語  
欲信大義心資亮  
還定全秦志類蕭  
千載樓東尚遺恨  
其如安樂自逍遙  
右乾隆帝詩  
荒鳴門書



忠明

車聖

永濟橋

卅城乃小巨 此橋明又叙今河乃流南又徙又空橋之用又失之流乃

乾隆二十五年敕建新橋

御製之碑文奉 盧溝橋乃御碑其高百里有輝映 齒代於南之結構之

智度寺

卅城東北之隅有 寺中石基之遺蹟也 ○普壽寺 城東三里之南有石基乃其遺蹟也 ○佑聖

卅城乃東南二十里之南有寺內有崇殿之遺蹟

○人物

蜀關羽之像

縮模馬元欽圖

蜀の関羽は河東涇陽の人なり。顔  
髯は長く、慷慨義を尚み、  
喜んで死す。春秋と関羽、之  
命して涇陽に在る。附み先を  
衆と慕て、美巾の絨と、先  
と、関羽張飛と、ともに先を  
と、關羽張飛の二人、関と  
兄弟の如く、巴蜀と定む。小  
で、關と稱して、先軍と、關  
州の鎮と、む。威、華、震、ひ、  
世、は、遠、く、名、に、



報曹孟故所以義人  
所竟心於姬為洛傷  
火遂輕其征不殊  
於美韓公金故玉振  
記五則漢史

直隸

順天府

卷之五

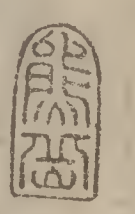
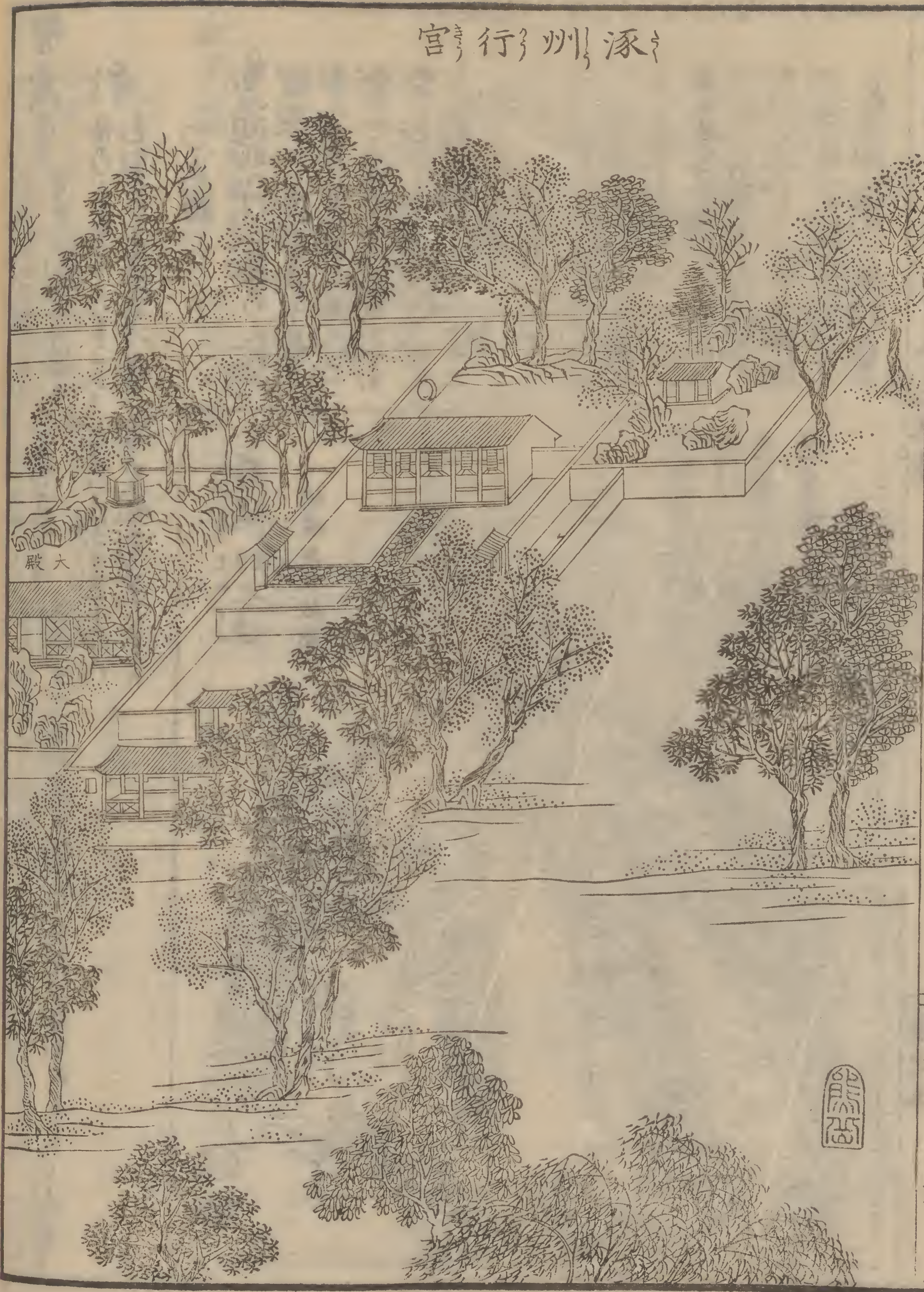
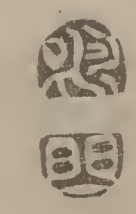


涿州行宮



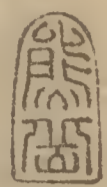
練古巡江國重臨  
 四字  
 城軒極無藻飾几  
 席有  
 餘清興與新春發  
 心依  
 古月明金吾何必  
 禁爆  
 竹喜聲々

右乾隆帝詩  
 鳴門書





永濟橋



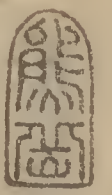








長堤





引馬洞 州城の 乞も又揚廷朗が穿所なり。 此洞州城の中より條定府の雄縣へ通る。唐

斬獲せらる。 今洞にありて勝りたる。明王鳳靈引馬洞詩興圖今

○人物

○令の接判蓋ハ霸州の刺史なり。 時ハ歲飢ハ蓋則俸粟と出く飢者若シ食ハハ此ハ

旅ハ傳ハリ以テ必ハ郡中ハ富家通ハ粟と出く之ハ依テ遂ハ霸州ハ飢民ハ活

以テ州ハ東南ハ隈あり。 之ハ一ノ類也。水ハ之ハ屢嘗と如ハ蓋勅て是と増修ハ既ハ

後ハ如ハ郡民社を立テこれと名メル。

○北魏ハ平鑿ハ霸州人ナリ少シテ聽勅高使ハ之ハあり。 軍功とて田里ハ襄州ハ刺史と

懐州ハ移リて燃と燃ハ以テ冠と防ハ城中ハ再懸錫ナリ。 隆安冠シテ折ハ

○令ハ北時果ハ霸州信安の人ナリ博學ナリ。 天文を知信嘗て天ノ星ハ此ハ

嵩洛山中ハ隈居ハ後漢ノ學を以テ人ト教ゆ。 元ノ初博トシテ著述ハ石ノ書

最ハ富シ文獻ト溢セリ。

薊州

順天府の東三百里あり。 秦漢ハ漁陽郡ト魏晉ハ幽州ハ屬ハ隋ハ初ハ雲州ト唐ハ唐ハ

北平雄鎮翼 幽燕千里潮河朔 漠連司馬高臺

聞夜吹盧龍 古塞入秋煙 開疆競說分三衛 籌

國何因棄外 邊歎息寧封 南徒後遂令烽火達

甘泉 方還薊州詩 渭水淺文貫

龍池河

州の南 龍池河 州の南

嶺峒山

州城の東ハ嶺峒山ト云フ。 嶺峒山ト云フ。嶺峒山ト云フ。嶺峒山ト云フ。

盤山

一名盤龍山 州の西ハ盤山ト云フ。 盤山ト云フ。盤山ト云フ。盤山ト云フ。

甘泉山

州の西七十 甘泉山 州の西七十

梨花山

梨花山 州の東ハ梨花山ト云フ。 梨花山ト云フ。梨花山ト云フ。梨花山ト云フ。



盤山

蒼松亂插連雲

石上苔痕屐行

跡

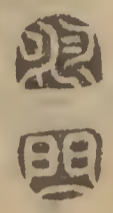
拄杖來從飛鳥

邊

下視蒼茫遠烟

碧

智朴盤山詩

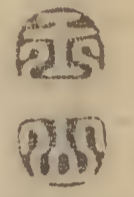


上盤

巨石

龍潭

白雲



直隸

順天府

卷之五





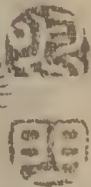


過郊臺

庚辰曾是勞旋師  
叩 祝臺陳得勝  
旗自此西瀛盡來  
賀每循南路引餘  
思固資衆力成勲  
績實藉元戎善指  
麾享澤何期騎箕  
尾不禁觸境一生  
悲

右乾隆帝詩

鳴門書



郊勞臺



直隸

順天府

卷之五



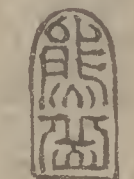
直隸

順天府

卷之五

宏恩寺

遙瞻古樹  
蒼小憩禪房  
窈窕來往頗慣  
經新年景倍  
好右乾隆帝









菊城は屯兵後四碑がたつた宮せらるる此は苑

○人物

金の劉徽柔の安次孫の人なり。進士。第。洪洞の令とある。明敏なり。若徳  
断尺後漢と云ふと云ふ。小孫中の人。透り。愚に。教て。去。を。得。る。者。目。と。論。す。  
み。小。生。祠。と。云。ふ。刻。と。て。其。徳。と。頌。せ。り。後。河。東。南。洛。の。轉。運。使。と。も。又。  
蘇。第。一。と。な。て。大。理。州。知。事。と。進。む。

香河縣

府の東南二十里あり。武法孫の地なり。遠世に權後漢を  
過き。唐氏の蘇集を名て。と。り。香。河。縣。と。名。す。氏。蘇。連。綿。十。里。

板曹口河

縣の西あり。源孤山  
より出て。白。河。に。入。れ。

駱駝港

縣の北里あり。源三河縣の卷兒山  
より出て。縣。界。を。流。して。白。河。に。入。る。

百家灣

縣の南に十里あり。俗に龍  
灣と云ふ。又南に小龍灣を

水源を知れ。河。は。石。に。付。と。も。水。竭。び。若。此。を。人。百。余。家。水。  
溢。と。く。論。説。す。り。今。も。凡。雨。會。時。の。中。小。孫。の。教。と。云。ふ。傳。ふ。  
其。秋。の。間。二。水。合。流。して。空。城。孫。の。界。を  
經。七。里。ゆ。へ。遠。代。海。運。の。故。道。な。り。

三河縣

通州城の東七十里あり。漢の條涿孫の地なり。唐よりて  
三河縣と。七。後。魏。五。條。涿。の。三。河。に。近。き。と。な。て。名。を。編。戶。二。十。里。

七渡河 一名黃頰水

其源順義孫の黃頰水なり  
流。して。三。河。縣。の。界。を。經。て。白。河。に。入。

靈山

縣の北十  
八里あり。

此山三面より水あり。信湖を望むと云ふ。

華山

縣の北三十  
一里あり。一名卷兒山。山。上。に。石。像。あり。秋。龍。潭。と。云。ふ。

聖水山

縣の西北三十  
八里あり。山上に神水あり。眼疾と愈す。○純山 縣の北へ十里あり。秋龍潭と云ふ。

武清縣

通州城の南二十里あり。漢に雍奴縣と云ふ。唐の天竺の地に武法孫と改む。  
今。是。れ。固。又。明。代。孫。の。西。北。に。漸。祿。あり。後。魏。廢。して。武。法。孫。の。内。に。入。る。

三角渡

縣の南八  
十里あり。周回二百餘里。其源范瀧口より出て。王家院河及び劉道口

河。東。兒。里。河。等。の。諸。水。聚。り。三。角。渡。より。東。又。沽。港。に。會。り。て。海。に。入。れ。

三角渡は。一。の。雍。奴。方。り。水。煙。ま。ま。に。面。水。多。分。  
雍。奴。の。流。と。ま。ま。に。奴。と。云。ふ。一。の。名。首。溝。と。云。ふ。

直沽

縣の東南  
八十里あり。衛河自河。丁字沽。乃。諸。水

合流して西南。沽。港。に。合。て。流。と。下。る。り。に。十。里。其。石。以。海。口。と。云。毎。日。潮。漲。來

楊村に到る。○清沽港

縣の南八十里あり。西に安沽港に  
接し。東に丁字沽に合て。海に入る。

新河

縣の西六  
十里あり。一名漸河。即。明。代。の。漸。縣。界。なり。遠。代。の。漸。法。孫。乾。統。に。奉。命。を。開。闢。見。る。

數百畝。葦。艾。荷。の。數。澤。中。に。生。ひ。鶺。鴒。雁。多。く。此。に。集。る。遠。近。の。愛。此。を。不。れ。七。橋。と。名。を。擧。げ。て。説。す。

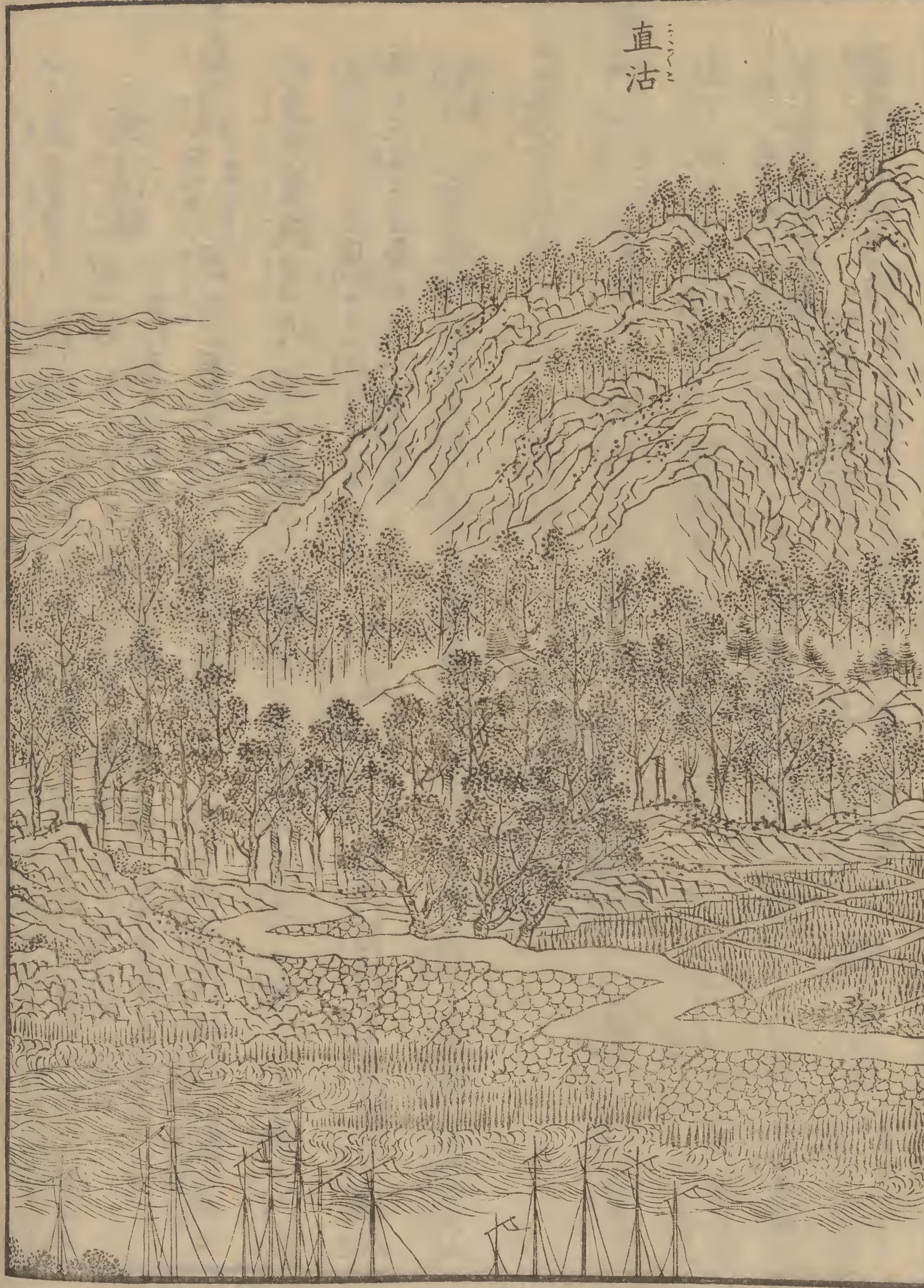
崔氏園亭

縣の西南十里。  
令の巨卿。教諭。崔。後。が

園亭の址なり。令。之。以。て。崔。氏。此。に。園。中。多。く。花。を。植。て。遊。覧。す。り。名。を。傳。へ。て。後。世。に。傳。ふ。○涼鷹臺 縣の西にあり。十里あり。



直沽



極目滄溟浸  
碧天  
蓬萊樓閣遠  
相連  
東吳轉海輸  
杭稻  
一夕潮來集  
萬船  
元王懋德



直隸

順天府

卷之五















古北口

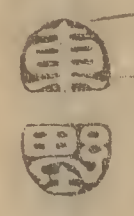


古北道中

亂山環合疑無路  
小徑  
縈回長傍溪  
髮髯  
夢中  
尋蜀道興州東谷  
屬州西  
蘇轍詩

楊令公祠

古北口關









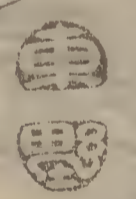
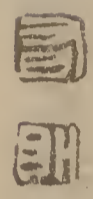
髻髻山

懷柔縣の山界あり  
山嶺花や侍て此の髻  
髻の上より玉皇廟  
ありて人氏祈禱者  
多し橋は必度橋を  
よる



灵秀凝將石  
持寶  
喜嵐未了暮  
雲百  
玉皇教髻千  
年可  
豈比人切上  
界山

横濱書



直隸

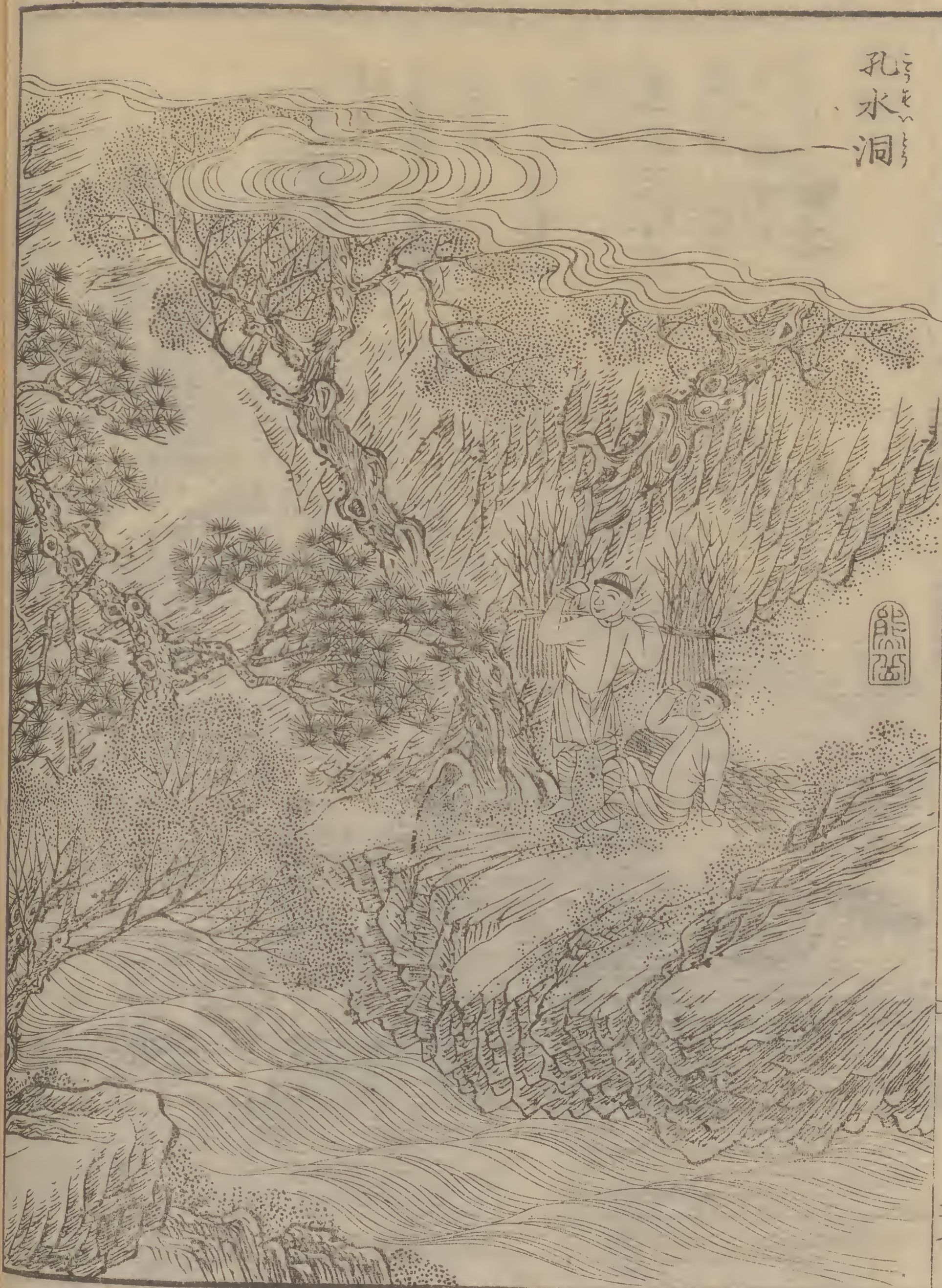
順天府

卷之五





孔水洞



熊出



大房山 嶺の西十 縣中諸山乃内之於唯此山雄峻はして秀あり。古碑云幽燕の奥

伏龍窟を龍 大房山乃東山より上懸崖千尺餘あり。石崖の洞と云斗其内より

孔水洞 大房山乃東山より上懸崖千尺餘あり。石崖の洞と云斗其内より

石經山 嶺の西南 峯山秀峻して天竺山の如し故又小西天と

石經洞 石經山の東あり。隋の大業年間法師釋旻らふ者募僧して石と鑿て洞と

明洪武中命僧道衍往觀之留詩曰我々石經山蓮峯吐金碧秀氣鐘悲題勝擬擬西域竺墳五

千卷華言百師譯琬公懼變滅鉄筆寫蒼石片々青瑤光字々太古色功成一代就用藉萬人力

流傳鄙簡編堅固陋板刻深由地穴藏高聳岩洞積初疑神鬼工廻著造化迹延洪勝汲塚防虞

猶孔壁不畏野火燎詎愁苔蘚蝕茲山既無盡是法寧有極如何大業間得此至人出幽明護尔

利乾坤配其德大哉 弘法心吾徒可為則

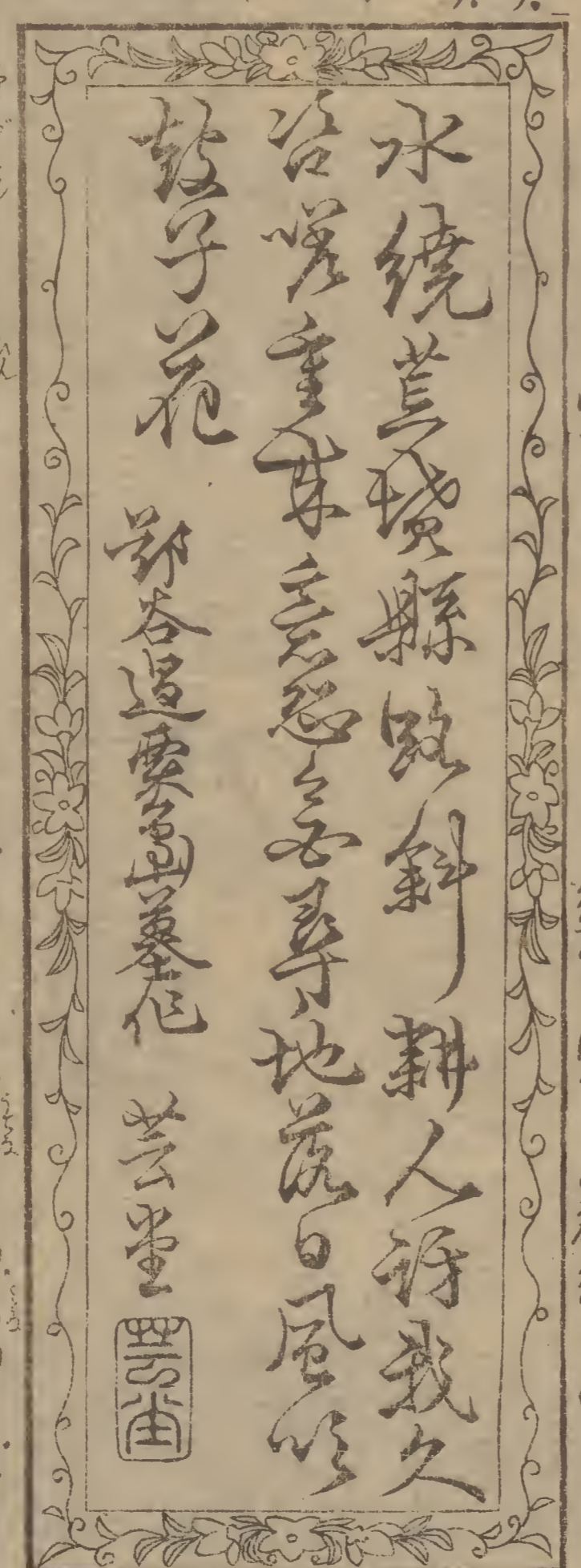
穀積山 嶺の西十里 山下三の石洞あり三學と名く教子人と容也

般州山 馬鞍山 大安山 白雲峯 賈

島浴 嶺の西あり 内右あり

賈 嶺の西あり

鳴墓 嶺の南十 里あり



孫贖墓 嶺の西南上樂村あり。贖

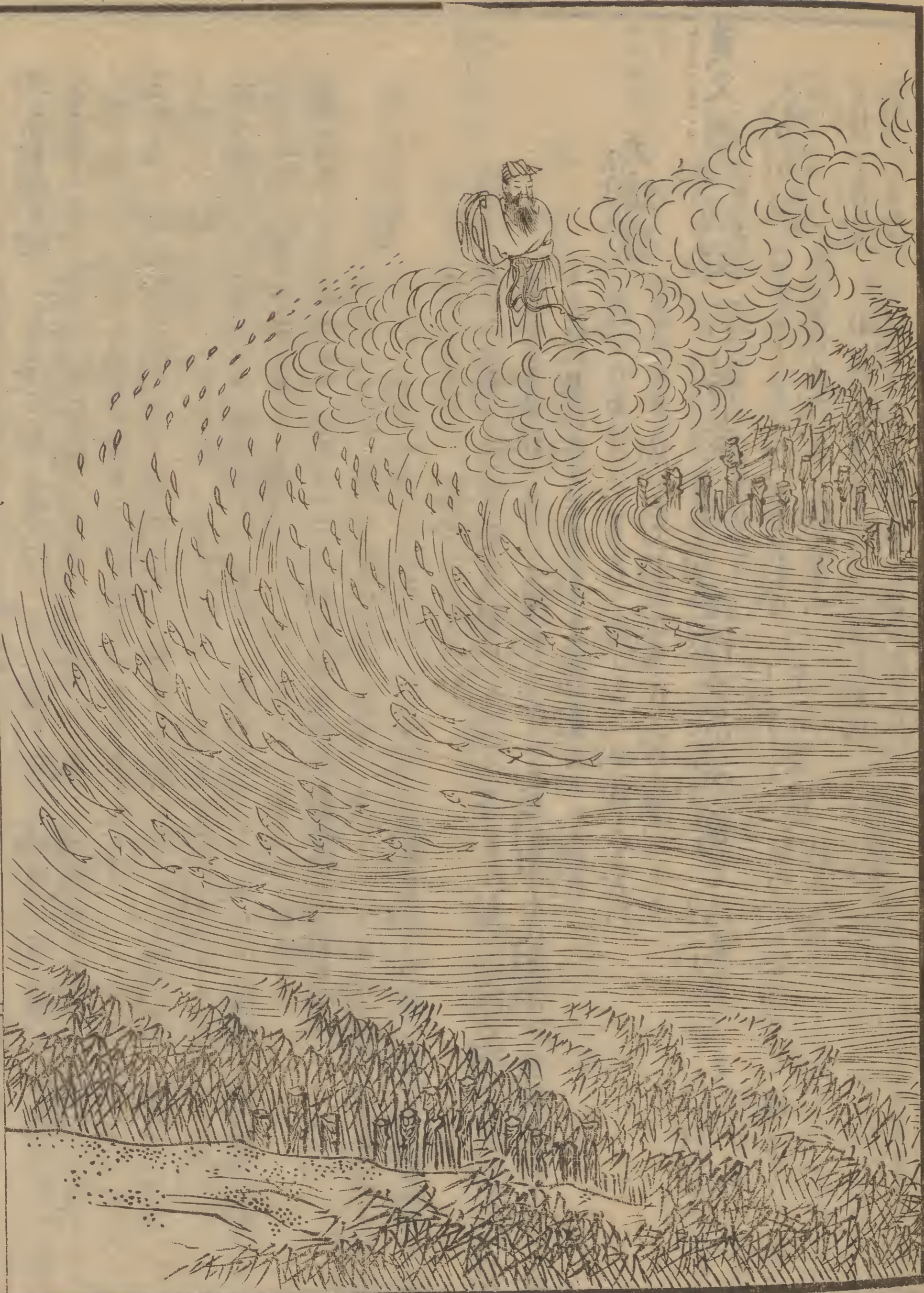
上方 嶺の南又十里あり。西崖の向と鑿て石

人物 嶺の南七十里あり。唐の

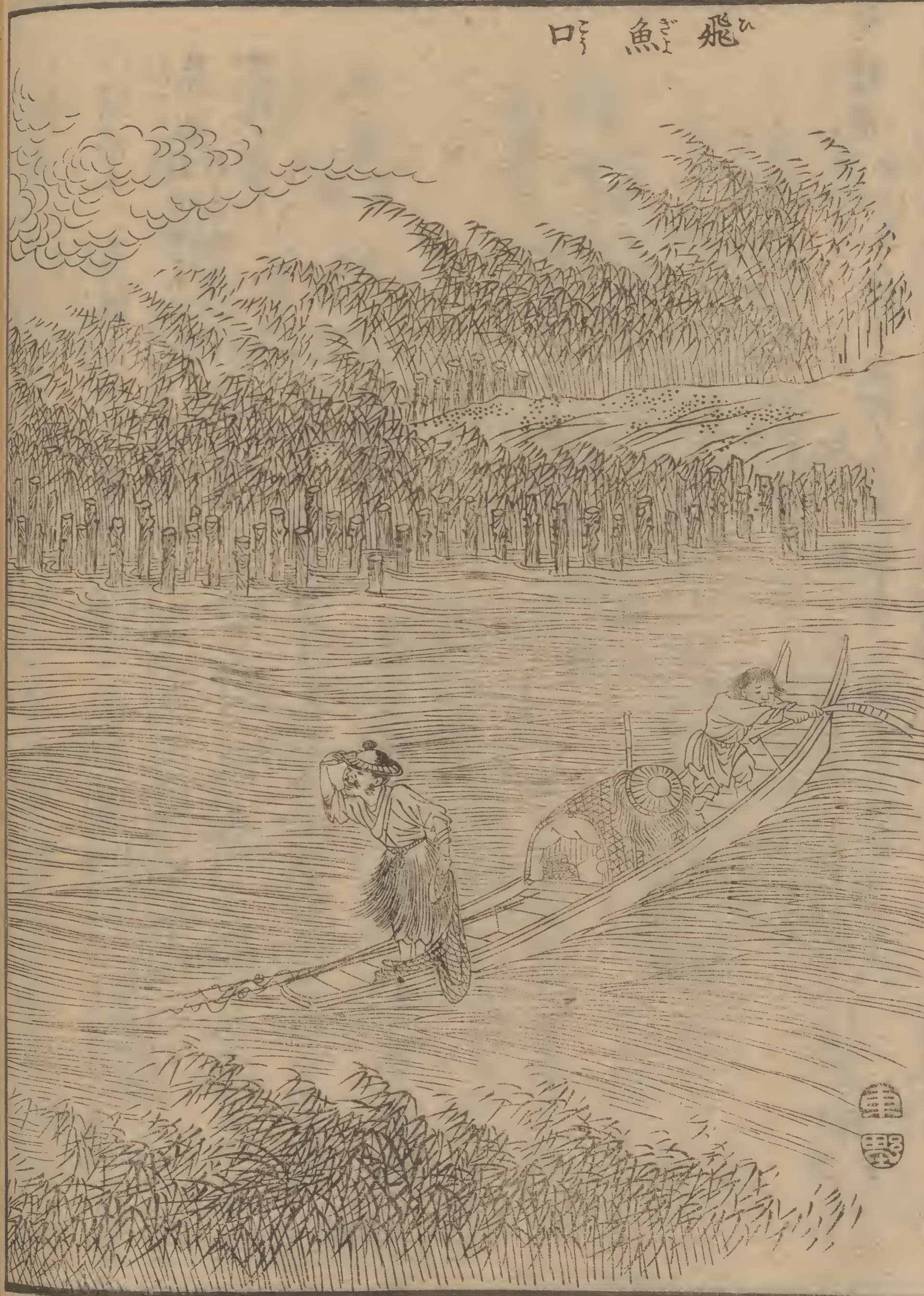
文安縣 嶺の南七十里あり。唐の

火燒渡 嶺の南二十里あり。唐の





飛魚口





















三百里西直隸易州之廣昌縣之界也。三百里南正定府之安平縣之界也。三百里西順天府涿州之界也。三百里北保定府之涿州之界也。

清苑縣

清苑河

府城之西二里。水勢流注。出於流。即保定府城之北。水勢流注。出於流。即保定府城之北。水勢流注。出於流。即保定府城之北。

形雞距之。其水名。一畝水。府之西三里。水名。一畝水。府之西三里。水名。一畝水。府之西三里。

○涿水 府之東三。十里。水名。涿水。府之東三。十里。水名。涿水。府之東三。十里。

○石橋河 府之南。水名。石橋河。府之南。水名。石橋河。府之南。水名。石橋河。

○蓮華池 府之南。水名。蓮華池。府之南。水名。蓮華池。府之南。水名。蓮華池。

○龍泉 府之東。水名。龍泉。府之東。水名。龍泉。府之東。水名。龍泉。

郎山

山之面背一無異。不待風烟變化。神已迷危。關度雲嶺。亂石臨荒。踐林間。小草不識風。

日自太古我行終日仰羨木杪幽會啼但見雨色來雲物馳以凄忽然長嘯得石頂痛快如御駿馬蹄萬里來長風五色開晴霓長劍倚天立皎潔瑩鸚鵡平地拔起不傾倒物外想有神物提 元劉因遊郎山雜言 荒鳴門書

○松山 府之西。水名。松山。府之西。水名。松山。府之西。水名。松山。

○樓翠樓 府之東。水名。樓翠樓。府之東。水名。樓翠樓。府之東。水名。樓翠樓。

○萬卷樓 府之東。水名。萬卷樓。府之東。水名。萬卷樓。府之東。水名。萬卷樓。

○臨濟亭 府之東。水名。臨濟亭。府之東。水名。臨濟亭。府之東。水名。臨濟亭。

○鳴霜樓 府之東。水名。鳴霜樓。府之東。水名。鳴霜樓。府之東。水名。鳴霜樓。

○石橋河 府之南。水名。石橋河。府之南。水名。石橋河。府之南。水名。石橋河。

○蓮華池 府之南。水名。蓮華池。府之南。水名。蓮華池。府之南。水名。蓮華池。

○龍泉 府之東。水名。龍泉。府之東。水名。龍泉。府之東。水名。龍泉。

○郎山 府之西。水名。郎山。府之西。水名。郎山。府之西。水名。郎山。

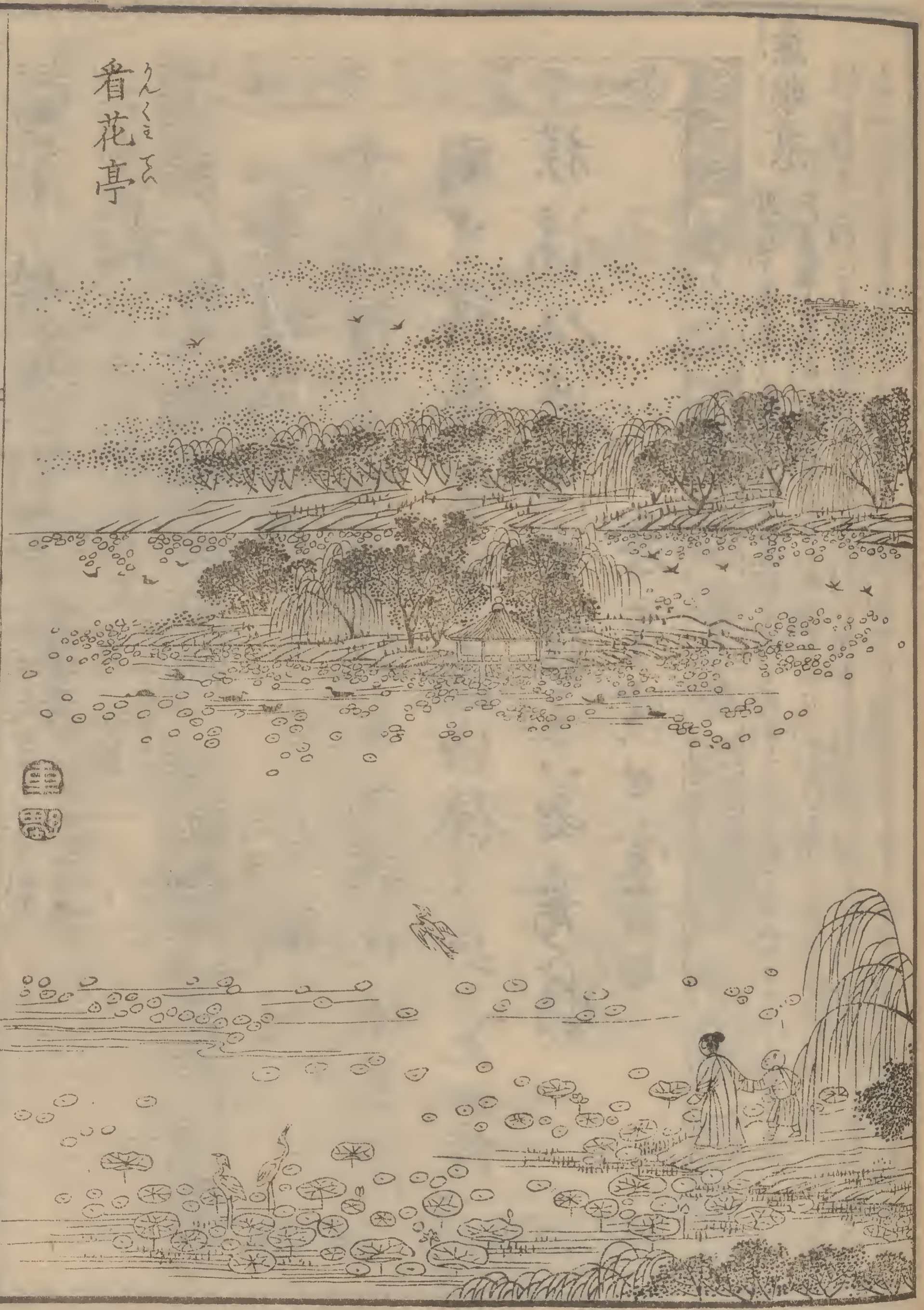
題橫翠樓 明黎民表  
高樓當絕塞 春望轉氤氳  
百戰全燕地 千里大漠雲  
控弦驚虜騎 顧憶將軍老  
去親戎馬 悲茹向夕聞  
乙丑春日 橫塘子書



蓮花池  
臨漪亭



看花亭



直隸

保定府

卷之五













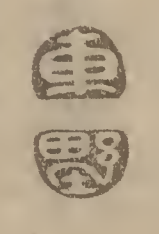


凡層之  
兮  
易水  
亭  
壯士  
一去  
兮  
不復  
還  
摸樣去  
司則



直隸

保定府





右堤

卅城の北易水の溪あり秦の附

宋代又後漢て上雲錦臺を建

建乃上云錦

卅城と稱き以て九河の水と防

劉家渡

卅城の西二十里あり源法緑の石橋河

齊雲樓

卅城の

要小の障あり樓雲

邊吳塔

卅城の南あり

滿城縣

保定府の西北十里あり秦漢の小平緑あり史記に趙簡子小平城と稱して燕と防

其後魏の永熙二年永樂祿及び樂浪郡

眺山

緑の小三里あり山下の小乘馬洞金洞を教百人を容れ其山巖花として峙立のかりて眺を

陵山

上右帝王の陵あり右名く元の至正中勅して靈山と改其山

抱陽山

山勢南拱拱内の谷温和なり松をの附と

氷雪の積り少

石府七十二の六なり若二三百人と谷谷小なる者教十

山頂平暖坐して持ふ石

又石中又水あり○玉山

方順河

緑の南十里あり

讀書堂

一名相公堂唐の張說嘗て業と此又肄

趙簡子祠

○張蒼墓

人物

○安肅縣

牟山

山は石なく去肥う田はして稿麻を植

四面高く聳へ中道あり

○龍山

應あり

○班妃山

隱る

○仙人

○谷山

○班妃山

○班妃山

○班妃山

○班妃山

○班妃山

○班妃山

○班妃山







授時書と定む甲子  
又博野縣を定む甲子  
又博野縣を定む甲子

博野縣

保定府の東南九十里あり。此地博水あり。又博野縣あり。後魏の景明の初博野縣を定む。漢の靈帝時、博野縣を定む。晉の高陽國に編戶二十六里あり。

博水

保定府の東南九十里あり。此地博水あり。又博野縣あり。後魏の景明の初博野縣を定む。漢の靈帝時、博野縣を定む。晉の高陽國に編戶二十六里あり。

二程子祠

保定府の西南九十里あり。漢の程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。

望都縣

保定府の西南九十里あり。漢の程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。

龍泉河

保定府の西南九十里あり。漢の程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。

清水河

保定府の西南九十里あり。漢の程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。

濁龍河

保定府の西南九十里あり。漢の程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。

涌泉

保定府の西南九十里あり。漢の程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。

慶都陵

保定府の西南九十里あり。漢の程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。

龍泉河

保定府の西南九十里あり。漢の程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。

柳宿城

保定府の西南九十里あり。漢の程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。

容城縣

保定府の東北九十里あり。漢の程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。

白塔村

保定府の東北九十里あり。漢の程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。

劉因墓

保定府の東北九十里あり。漢の程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。

人物

保定府の東北九十里あり。漢の程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。程都令改めて慶都縣と名を置けり。



元劉因之像

完縣

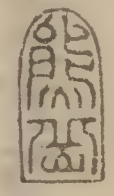
保定府の西七十里あり。秦の曲逆縣あり。漢の完縣あり。唐の完縣あり。宋の完縣あり。元の完縣あり。明の完縣あり。清の完縣あり。



馬耳山

雙峰何年聳  
雙耳  
叱之不動煩  
風雷  
今朝向我効  
神駿  
翠色欲逐神  
鞭來  
浮世浮名酒  
一杯  
我欲舊此觀  
蓬萊  
只愁日暮三  
山上  
黃塵回首令  
人哀

元劉因作  
鳴門



直隸

保定府

卷之五





瀦水一名北易水 源窮獨山より出て東南に流り夏州城の北に

嶺山 嶺の西に三里あり。厥勢巖峻 計りて開入て流るるに

○白崖山 嶺の西北に十里あり。房密秀峰 内より白石を

○栢山 嶺の西北に十里あり。山たやうく小 瀦に及ぶ

○馬耳山 嶺の 西に三里あり。其峰高き

○二の峯高き 嶺の西北に十里あり。其峰高き

○漢陳平宅 嶺の西北に十里あり。今石棧に在り

○堯城 嶺の南にあり。相傳ふ唐堯の築く所なり

○陳平墓 嶺の西北に十里あり。墓あり

○靈縣 保定府の南九十里あり。漢靈縣と云ふ

○紫微山 嶺の東にあり。山僅あり

○寶寧寺 嶺の東にあり。寺あり

○二右塔あり 周十丈高き

○明の洪武の間を修ら

○大宋其室

○漢賢神廟 嶺の東にあり

○漢霍光廟 嶺の東にあり

○人物 漢の王商の墓あり

○大雄山 嶺の西にあり

○小雄山 嶺の西にあり

○瓦橋關 又代の周成徳多回此關を

○亞谷城 嶺の西にあり

雄河 嶺の南にあり

易京城 嶺の西にあり











聖姑祠  
せいのこ



熊野

直隸

保定府

卷之五









永平府

禹貢冀州の域の東山營州の地方。即高の孤竹國春秋の附山戎肥子の二國とせり。秦は遼西右小平の二郡と置漢の末公孫度此地を據り三國の魏は盧龍郡と改め小燕を平州と。樂浪郡と置後魏は改めて小平郡と。五代の唐は遼興軍と置令の附は南京と稱以後後平州と名く元は改て興平府と。中統年同平濠路と改め大德中亦永平路と改む。明の洪武二年永平府とる。京師は直隸は清朝と化は仍府治と盧龍縣は屬する州一縣六。曰濠州曰盧龍縣曰遷安縣曰撫寧縣曰昌黎縣曰樂亭縣曰餘榆縣。明は德勝縣と改む。清の乾隆の同撫寧乃。九永平府の治より東は山海關より一百八十里西は遵化州の豐潤縣の界より。一百二十里南は海岸より。一百六十里北は柘林口より。六十里是と永平府の治る境内と。唐太宗於北平作翠野駐戎軒。

盧龍轉征旆。遙山麗如綺。長流紫似帶。海氣百重樓。巖松三尺大。茲焉可遊賞。何必裏城外。

盧龍縣

永平府治と此縣は遼東都と云ふ。八百二十里此地より一の肥子國漢は肥如縣と。北齊は心平郡と。又於て新昌縣と改稱。肥如と省て新昌。又後盧龍郡の治と。唐は改て盧龍縣と。遼寧を明國は改て依編戸十里。

漆河

盧龍縣府城の西門外と流漆河。漆河は漆水と云ふ。漆水は漆河と云ふ。漆河は漆水と云ふ。漆河は漆水と云ふ。

肥如河

府城の東二十里あり。

解龍水

府城の東九十里あり。

湯

此泉温にして湯のじと。いと飲べし。夜を煮る。大沮水

小沮水

府の南あり。下流相めて漆河に入。

譙樓

府の南あり。雨降るとは。中より丸とる。

陽山

府城の東南。射虎石。十里有り。

洞山

府の西二十里あり。此山高く。嶽と名を。

雙子山

府の西二十里あり。山は孤竹長君の墓あり。

周

架山

府の南二十里あり。巖石。後漢は架山の嶺と云ふ。

馬鞍山

府の西二十里あり。孤竹少君の墓あり。

園子山

府の西二十里あり。山は孤竹少君の墓あり。

王山

府の西南二十里。漆河の中。水其下と交る。

裂坡山

府の西南二十里あり。山は裂坡あり。雨と名を。

小安山

府の東二十里あり。

龍山

府城の西二十里あり。

志は盧龍鎮。山は龍のて。はして。以て縣の名と。赤峯山



射虎石



府の西に十里あり。其形龜に似たり。其中暖氣勃発。花并に開む。

鳴遠樓 ○ 高樓 ○ 文會亭 ○ 釣魚臺 ○ 望海其臺

○ 桃林口関 盧龍縁 伯夷叔齊廟 古孤竹國 古肥子國

石槽 古朝鮮城 三圻 已絶

○ 人物 漢の周勃が相なり。其の弟東は漢の将軍なり。其の弟南は漢の将軍なり。其の弟西は漢の将軍なり。其の弟北は漢の将軍なり。

○ 七女 府の境内に七女山あり。其の山に七女あり。其の七女は漢の将軍の妻なり。其の七女は漢の将軍の妻なり。其の七女は漢の将軍の妻なり。

○ 漢の周勃が相なり。其の弟東は漢の将軍なり。其の弟南は漢の将軍なり。其の弟西は漢の将軍なり。其の弟北は漢の将軍なり。

○ 伯夷叔齊の流竹の若の二子あり。其の二子は漢の将軍の妻なり。其の二子は漢の将軍の妻なり。其の二子は漢の将軍の妻なり。

○ 叔孫叔孫の流竹の若の二子あり。其の二子は漢の将軍の妻なり。其の二子は漢の将軍の妻なり。其の二子は漢の将軍の妻なり。

○ 叔孫叔孫の流竹の若の二子あり。其の二子は漢の将軍の妻なり。其の二子は漢の将軍の妻なり。其の二子は漢の将軍の妻なり。

○ 叔孫叔孫の流竹の若の二子あり。其の二子は漢の将軍の妻なり。其の二子は漢の将軍の妻なり。其の二子は漢の将軍の妻なり。







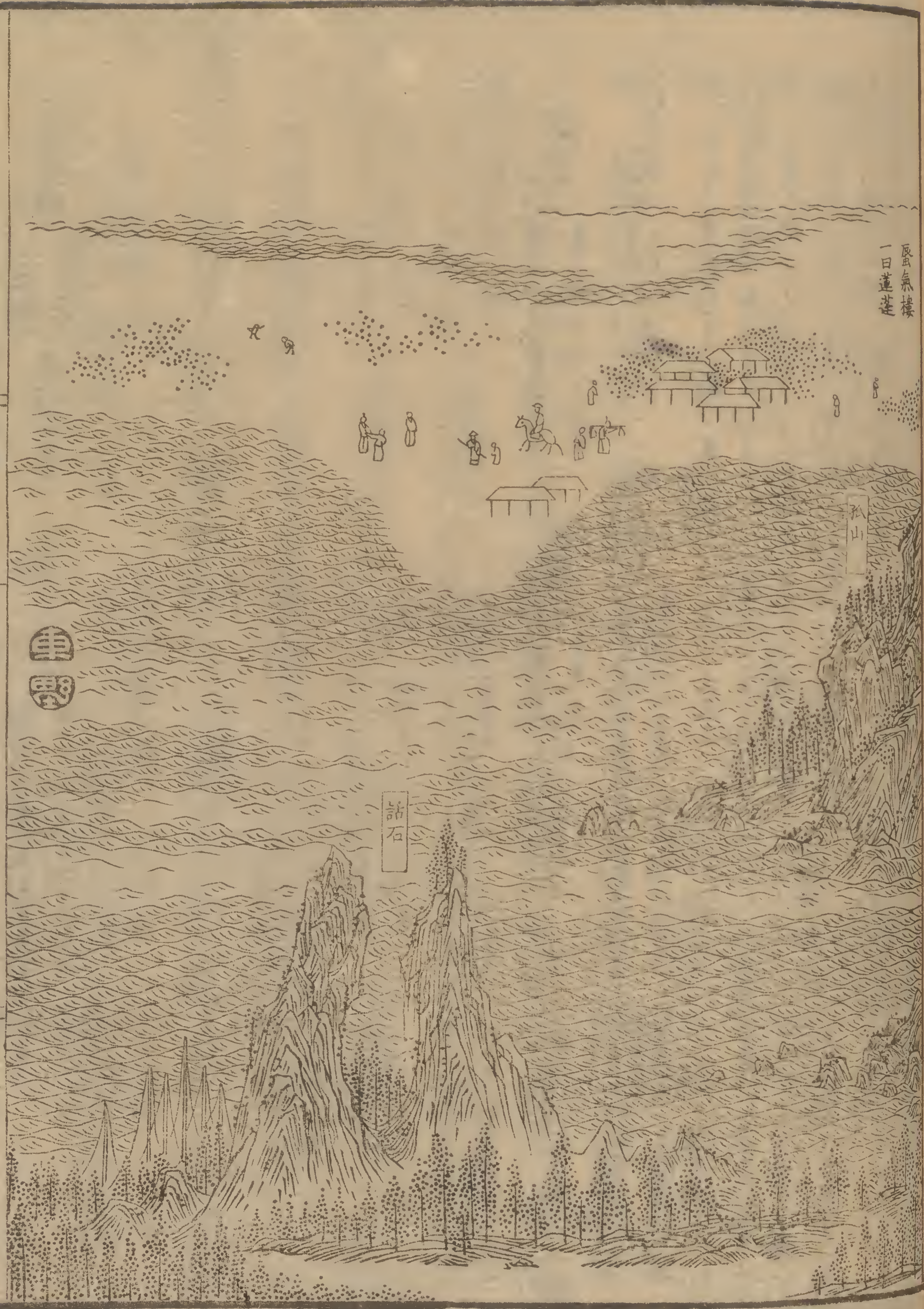




山海關



風氣樓  
一日蓮蓬



直隸

永平府

卷之五







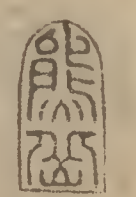
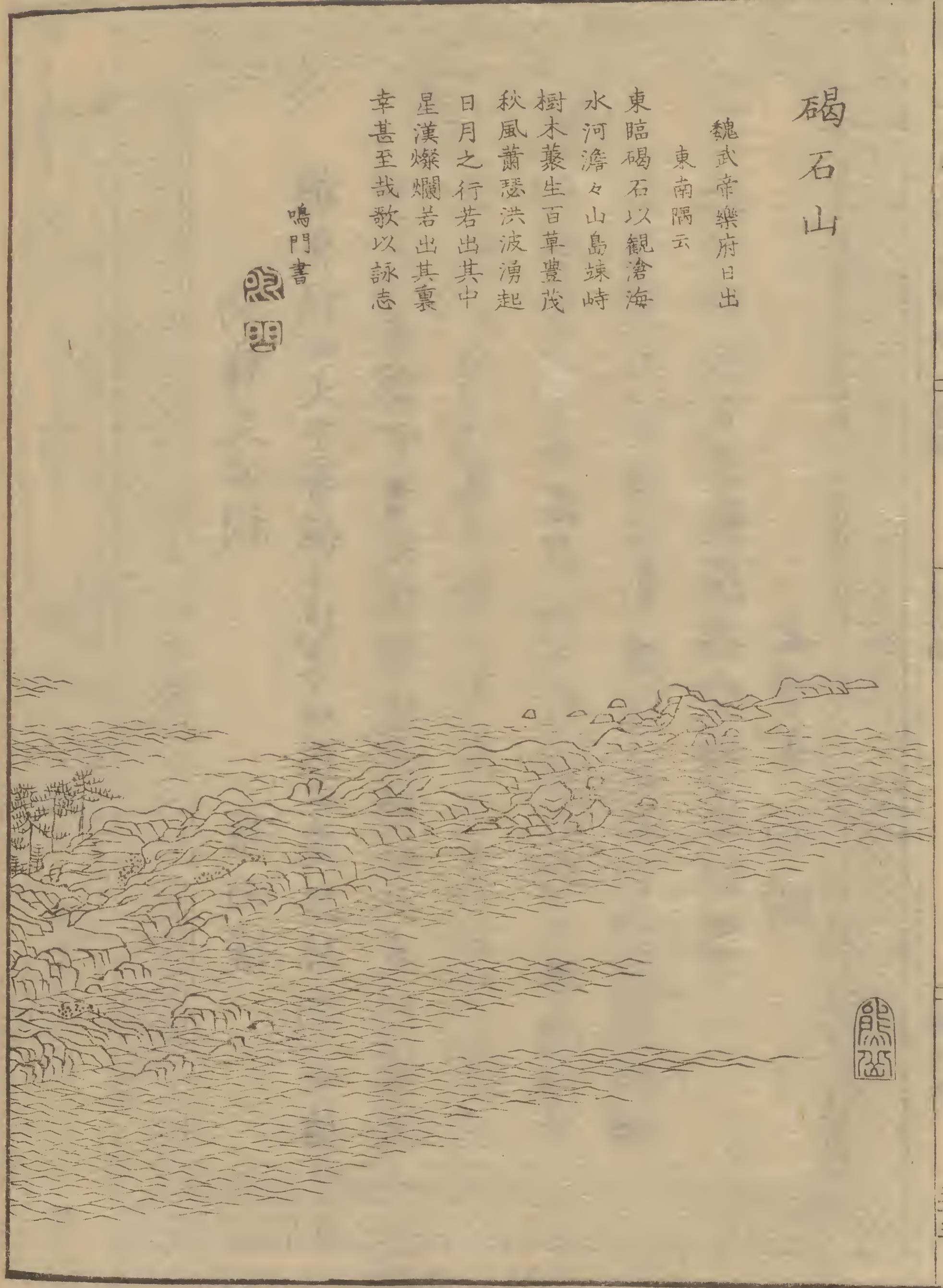
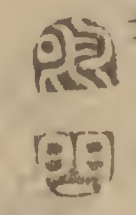
碣石山

魏武帝樂府日出

東南隅云

東臨碣石以觀滄海  
水河澹々山島竦峙  
樹木叢生百草豐茂  
秋風蕭瑟洪波湧起  
日月之行若出其中  
星漢燦爛若出其裏  
幸甚至哉歌以詠志

鳴門書



直隸

永平府

卷之五









河間府總圖

河間府 東西百八十二里 南北四百廿二里

天津府界



山東界

保定府界



直隸

河間府













紅杏園

乾隆帝  
 渤海經古邑芳園  
 駐翠輦  
 徘徊尋故跡云昔  
 日華館  
 三雍曾著祢五經  
 亦賴顯  
 崇構早傾頽土階  
 新拓展  
 池臺取畧具琴書  
 供靜遣  
 物力毋亟勞容膝  
 斯已善

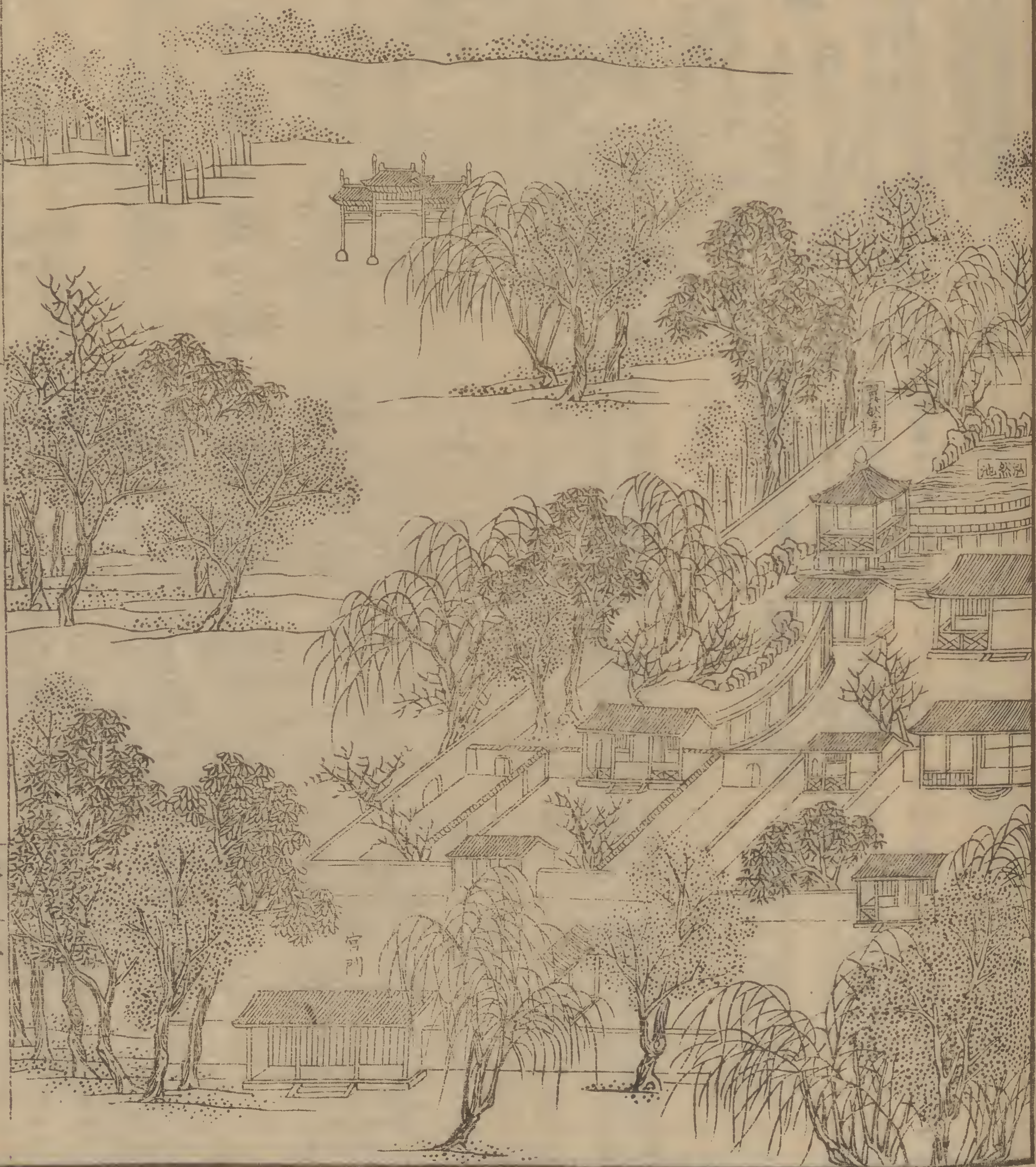
荒鳴門書  
  






紅杏園行宮

紅杏園行宮



宮門

直隸

河間府

卷之五



○高津枯河 緑の西三

○馬頰河 緑の西六十里

○約魯河 緑の東南八十里

○唐河堤 緑の南三

○唐溝 再城一湖の谷と夫の谷の河淵の傍より龍女又唐溝は唐の燕群を御せんと出ん

樂壽巖 緑の東南 中水城 緑の西三十里 漢の高祖其功臣馬量と

紅杏園 緑の西三十里 河間獻王の日華宮の遺址なり 獻王儒と好宮殿二十餘區と此に在

○人物 漢の劉叔明樂城の令なり 後明子と 謝生親百人と教授以賢良方正を奉りて

○河間獻王墓 緑の東八十里 武帝の附嘗て雅樂と較ん墓の傍に廟あり

阜城縣 府城の西百四十里 春秋の魯國なり 漢又阜城縣と成唐の末改めて

劉繇河 緑の西十二里 漢書の杜河の西に里許あり 漢南は湖莊補あり 白草和烟覆矮牆一門茅屋野茫

○蒟蘆河 緑の東にあり 華陽亭 緑の東にあり 相傳ふ蜀の

○漢劉晝墓 晝の南義門郷あり 晝の劉豫自

肅寧縣 河間府城の西八十里 漢の河間縣の地なり 宋の平虜塞と云

中堡河 緑の東二十里 其下流を五弟河と云

○平虜渠 緑の東にあり 魏の曹操表尚が代

○五千渡 緑の東南三十里 あり 隋の磁州唐の北にあり

○唐河堤 緑の南三

任邱縣 府城の北に十里 あり 漢の鄭縣の地なり 元始二年中即始任邱縣と云

不盡西山色蒼茫遠帝都内廷傳甲

第我古問妻孥寂冥隆中嘯悲涼督

元圖昔賢知未遇時一哭窮途

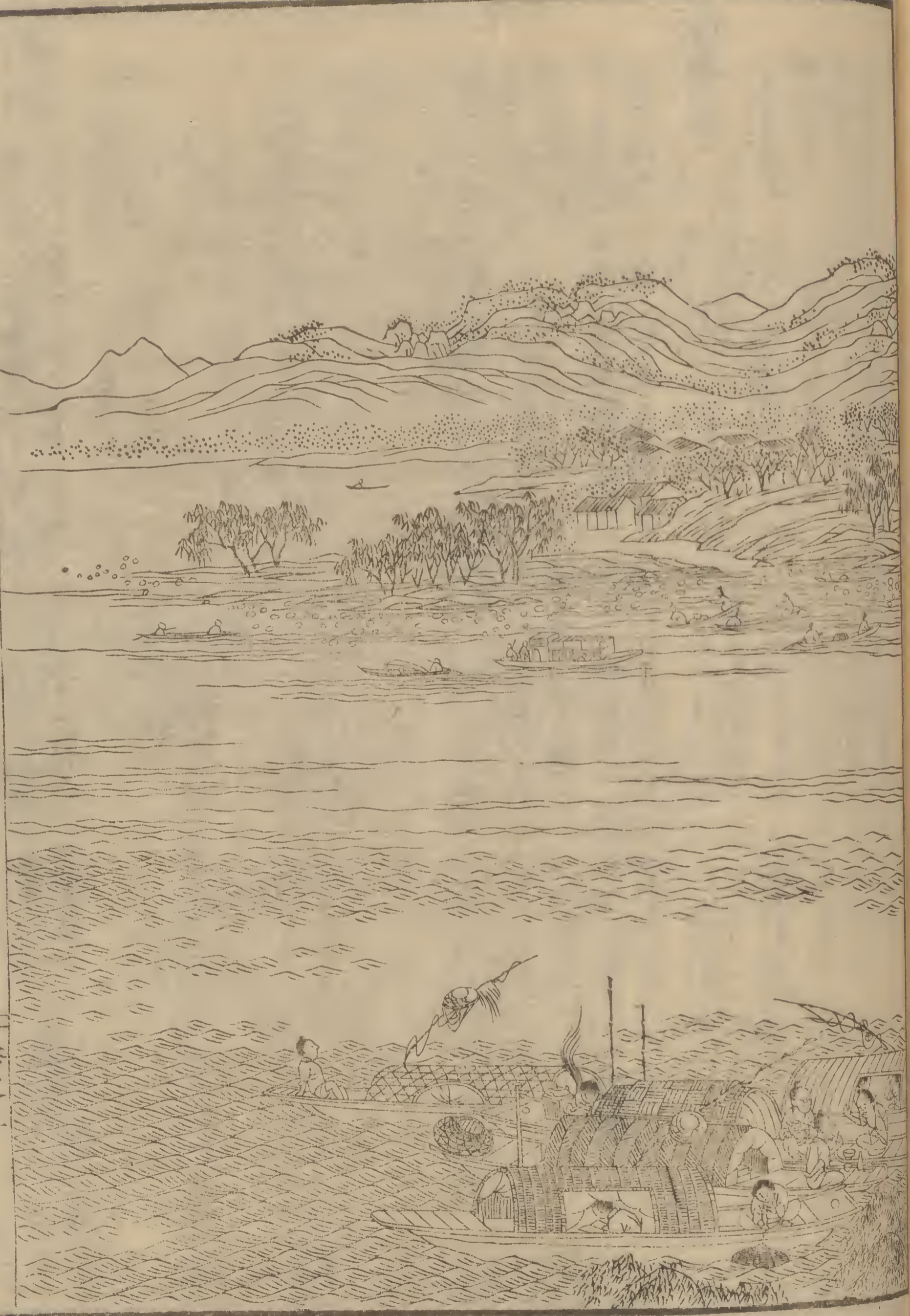
計東任丘道中詩

岡芳常

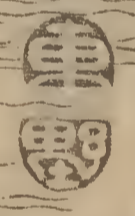
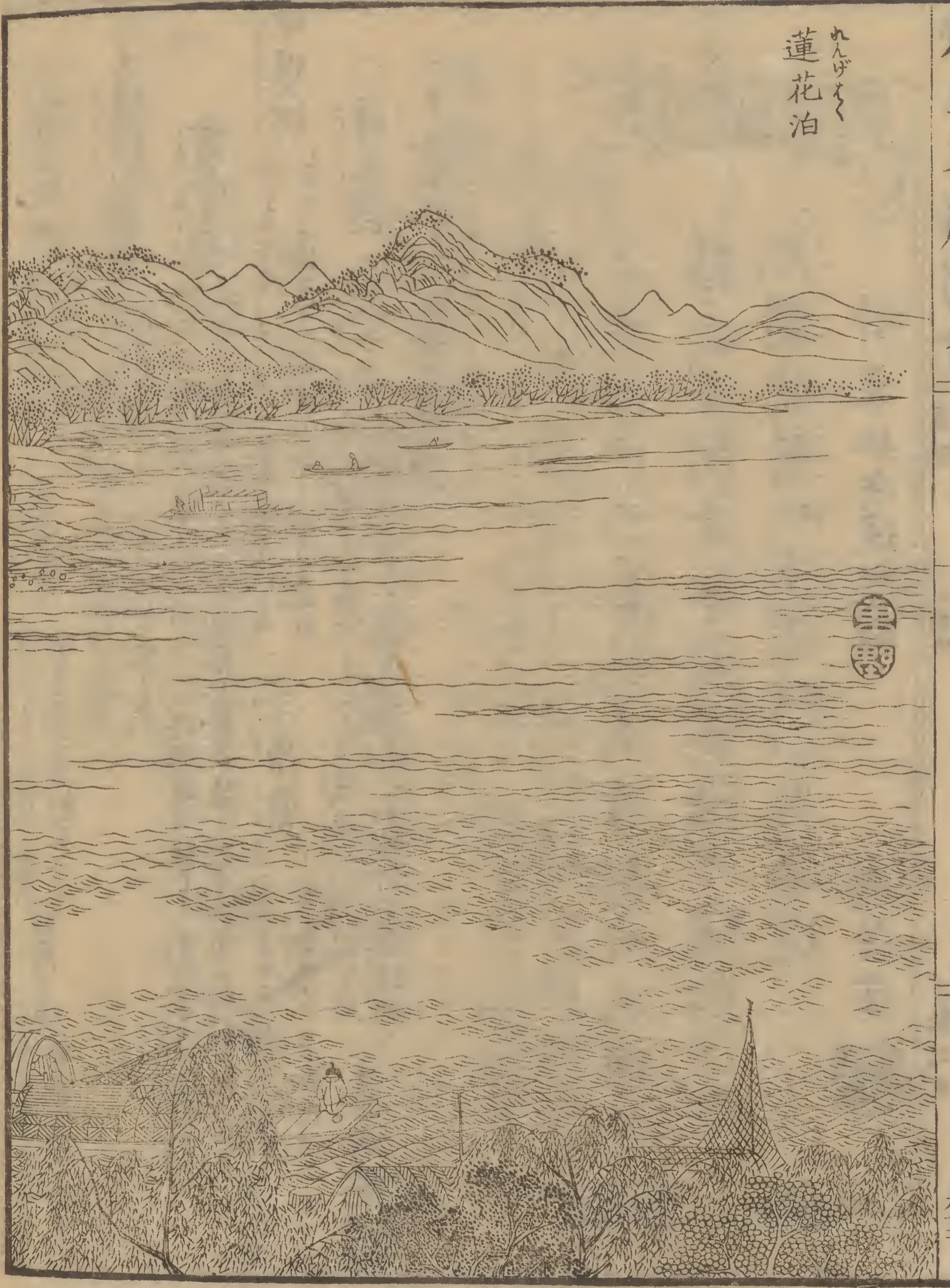
直隸 河間府 卷之五

轉世名勝圖會





蓮花泊  
れんげうく









趙北口



端村行宮

趙北口行宮

趙北口行宮

望園亭

望園亭

望園亭



直隸

河間府

卷之五



顛頊城

緑の北三十里又莫州城の遺址あり。其又北三十里又顛頊の遺址あり。

謁城

緑の南十里に謁城あり。韓嬰の著文帝の附博士なり。素帝の附博士なり。韓嬰の著文帝の附博士なり。素帝の附博士なり。

漢王傳韓嬰故宅

緑の南十里に謁城あり。韓嬰の著文帝の附博士なり。素帝の附博士なり。韓嬰の著文帝の附博士なり。素帝の附博士なり。

編鵲故宅

緑の南十里に謁城あり。韓嬰の著文帝の附博士なり。素帝の附博士なり。韓嬰の著文帝の附博士なり。素帝の附博士なり。

莫

緑の南十里に謁城あり。韓嬰の著文帝の附博士なり。素帝の附博士なり。韓嬰の著文帝の附博士なり。素帝の附博士なり。

高河 緑の西十里あり。高河の南三

越人等其邑也采以子因之故禁可矣海柱侯

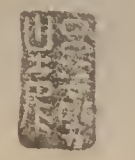
應及者其邑也采以子因之故禁可矣海柱侯

本朝聖

海河名區州在河内河内名區州在河内河内名區州在河内

加河名區州在河内河内名區州在河内河内名區州在河内

之在云



虞丘墓

緑の北二十里あり。我の國丘墓との相傳ふ漢の吾丘壽王の墓と傳ふ。一あり。此石臼をたてて寺と後以て墓とせしむ。其の石臼の中鮮魚を置きて。再いりの石臼をたてて寺と後以て墓とせしむ。其の石臼の中鮮魚を置きて。

汜臼

緑の南三十里あり。

人物

宋の刑部侍郎の任邱の人なり。廷法の日。外殿あり。出陣の二部と溝及又群を

交河縣

府城の南六十里あり。中水緑の地方なり。今の附治して交河縣と曰。漚泥

交河

緑の南あり。即漚泥。高河合流の北とをく。○涿河 緑の南三

寧津縣

府城の東南二百九十里あり。一の係安鎮の地。○高河 緑の西十里あり

寧津

府城の東南二百九十里あり。一の係安鎮の地。○高河 緑の西十里あり

黄河古道

緑の西三十里あり。一の係安鎮の地。○高河 緑の西十里あり

龍泉寺

緑の南六十里あり。中水緑の地方なり。今の附治して交河縣と曰。漚泥

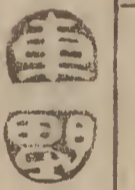
吳橋縣

府城の東南二百九十里あり。一の係安鎮の地。○高河 緑の西十里あり





黄河古道





孫贖墓 孫贖の墓あり。墓の上より。贖の齊の相方。孫贖の右の齊の地なり。

故城縣

府城の南二百九十里あり。隋の唐河郡。歷亭源の地。今全。故城の鎮あり。其の地。故城縣と名す。編戸八里。

枯河 孫贖の墓あり。孫贖の右の齊の地なり。

居園亭

孫贖の墓あり。孫贖の右の齊の地なり。

東光縣

府城の南二百九十里あり。漢代の舊縣也。又代の周子高。孫贖の右の齊の地なり。

胡蘇河

孫贖の墓あり。孫贖の右の齊の地なり。

清河

孫贖の墓あり。孫贖の右の齊の地なり。

胡蘇墓

孫贖の墓あり。孫贖の右の齊の地なり。

景州

府城の南二百九十里あり。漢の景城侯國也。後魏の景州也。今全。景州の地。今全。景州の地。今全。

三山

孫贖の墓あり。孫贖の右の齊の地なり。

西光

孫贖の墓あり。孫贖の右の齊の地なり。

盧師谷

孫贖の墓あり。孫贖の右の齊の地なり。

衛河

州の南二百九十里あり。漢の衛侯國也。後魏の衛州也。今全。衛州の地。今全。

三水

孫贖の墓あり。孫贖の右の齊の地なり。

廣川

州の南二百九十里あり。漢の廣川侯國也。後魏の廣川州也。今全。廣川州の地。今全。

用福寺

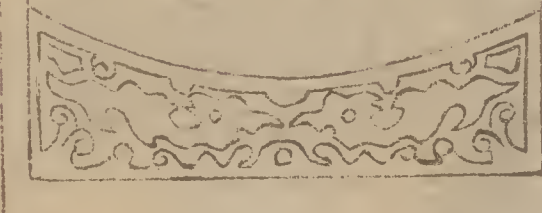
孫贖の墓あり。孫贖の右の齊の地なり。

周亞文廟

孫贖の墓あり。孫贖の右の齊の地なり。



漢室深謀只似癡 楚王當事更無機  
荒墳宝袂應從後 蔡宜有神光盡陸  
離 元宋本肉亞夫廟詩 東州 論四

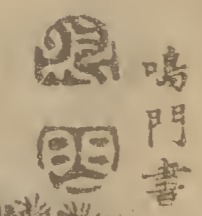




開福寺



乾隆帝  
紺宇現青蓮  
瞻遊取路便  
法雲垂四界  
花雨散諸天  
韶秀春光闕  
崇隆塔影懸  
禪房聊靜越  
駒隙指三年



鳴門書



天王殿

直隸

河間府

卷之五

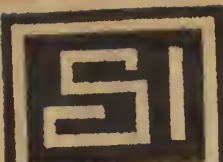












2242